

IASC小委員会（第25期・第2回）議事要旨

1. 日時 令和4年5月12日（木）13:00～15:00
2. 会場 遠隔会議 Zoom会議（主催会場：国立極地研究所）
3. 出席状況：

出席者：高倉浩樹、中村卓司、飯島慈裕、猪上 淳、竹内 望、檜山哲哉、山口 一、榎本浩之

欠席者：原田尚美、川合美千代、菊地 隆、深町 康

4. 議題

(1) ASSW2022及びIASC評議会の報告について

- ・榎本委員長から、2022年3月26日より4月1日にノルウェー・トロムソで開催されたASSW2022の参加報告があった。
- ・IASC評議会の報告・議論の様子について榎本委員長より宝庫国が行われた。Carbon Footprintアクショングループの報告、長期計画を策定するICARP IVについての報告がおこなわれた。特に、ウクライナの状況に関してのIASCでの議論の様子の説明として、北極研究におけるロシアが占める地域や課題の重要性は共通の認識であるが、国家がかかわる形の活動については停止することがやむを得ないのではないか、また活動休止や交流制限などの短期的な対処が必要とされる一方、長期的に科学が継続されることの重要性は共通の意見であったこと、科学者個人や学生の活動は擁護されるべきであるとする意見は共通であったなどが報告された。
- ・また、参考資料を基に、昨年度行われた日本が空術会議加入学術団体に関する調査票の提出内容の紹介および、学術会議HPにおけるIASCの紹介情報について委員長より報告があった。
- ・IASCのワーキンググループの日本代表に関して、猪上委員の任期が満了することから新代表の選出が必要なが確認され、推薦や承認による選出のプロセスについて確認された。

(2) 北極研究活動体制の強化に関して

- ・中村委員から、令和5年度の概算要求として国立極地研究所に「国際極域・地球環境研究推進センター（仮称）」を設置することに関して説明があった。本小委員会から設置計画に関するサポートレターを出すことの可否についてレター文案を示して諮られ、質疑応答の上、承認された。

(3) その他

- ・議題1で話題になった北極科学研究に対するロシアのウクライナ進攻の影響について、さらに続けて、ロシアの科学活動の最近の状況や今後の懸念の情報交換、意見交換が行われた。